

事業報告書

第8期

自 2022年4月 1日
至 2023年3月31日

ACAS

一般社団法人新CAS協議会

一般社団法人 新CAS協議会
2022年度 事業報告
【2022年4月1日～2023年3月31日】

1. はじめに

一般社団法人 新CAS協議会は、2018年12月の新4K8K衛星放送（4K・8K放送）開始に合わせて、放送コンテンツの保護管理に必要な新しいCASシステム（ACAS）の開発と普及を目的に、2015年10月に設立された。

現在は、設立時4社（スカパーJSAT株式会社、株式会社スター・チャンネル、日本放送協会、株式会社WOWOW）に加えて、ケーブルテレビ事業者、地上・衛星放送を含む放送事業者等15の正会員により運営されている。

4K・8K放送の開始から6年となり、組織としての活動の中心は社会基盤としてのACASの普及と展開に移行しつつあり、4K・8K放送だけでなく広く放送環境の醸成に向け取り組んでいる。

2022年度末までに、ACAS向けのID鍵の発行件数は、累計で2,400万件にのぼり、市場におけるACAS対応のテレビ等の受信機も1,500万台を超えている。

この間、ACASに起因する故障の報告はごく少数であり、使われるICチップのテレビ部品としての信頼性は、非常に高いことが実証されている。当初懸念された新しいCASシステムの導入初期の不具合がほとんど発生していないことから、ACASは初期普及フェーズを経て、新たなステージでの展開が期待される。

ACASの信頼性の確立を背景として、2022年度は受信機製造メーカーやチップ製造ベンダーとの連携を深めたことにより、ACASの利用範囲の拡大に向けて具体的な検討を始めることができた。

今後も方式の安定的運用に細心の注意を払いながら、より多くの視聴者が、高品質の放送コンテンツを安心して楽しめる環境の維持を図るとともに、放送に関わる幅広い分野の事業者との綿密な連携を深め、期待に応えられるようACAS方式がより強固な基盤となるよう努める。

2. 事業報告

【2-1：技術部】

技術部では、4K・8K放送の更なる普及に向けて、関係機関等と連携を図りながら放送コンテンツを適切に保護するための仕組み（ACAS方式）の安定運用及び継続的なセキュリティ維持・管理に関する業務を進めた。

①ACAS方式の運用

ACAS方式は、新4K8K衛星放送開始から4年以上の期間を経て、引き続き安定運用を継続しており、ACASチップについても、故障が少なく良好な品質を維持している。

2022年度は、放送局設備、受信環境及びACASチップ等における適切な方式運用を推進するとともに、市販受信機におけるCASダウンロード機能の技術検証を実施した。

②関連設備の運用

鍵管理システム等の各設備において、セキュリティ管理及び安定運用に努め、鍵データ発行等への継続的な対応を行った。

また、2022年度は、次期鍵管理システムの運用開始（2023年10月）に向けて、ケーブルテレビ事業者及びB-CAS等と連携し準備を進めた。

③セキュリティの維持・管理

運用フェーズにおける継続的なセキュリティ維持の取り組みとして、新たな脅威の調査のほか、CASモジュールベンダーと協力し新ACASチップのセキュリティ評価を実施した。

また、セキュリティ評価結果について、有識者による新CAS評価委員会で報告し、助言をいただいた。

④技術仕様等の整備

受信機メーカー及び放送事業者等に向けたACAS方式に係る技術仕様並びにACAS方式運用及びセキュリティ維持に関わる規程等の策定と維持管理を引き続き進めた。

2022年度は、鍵管理センタ更新に向けて、セキュリティ管理規程の改定を行った。

⑤関係機関等との情報共有

ACAS方式の普及と維持管理を目的とし、放送事業者、ケーブルテレビ事業者、受信機メーカー、CASベンダー及び関係機関等との情報共有と連携を図った。

⑥技術委員会等の会議運営

技術委員会及びCASベンダーとのコンサルティング会議等を継続的に開催し、ACAS方式に関する技術情報の共有と迅速な課題解決を図った。

【2-2：技術企画部】

技術企画部では、Km鍵の発行に関わる諸業務について、引き続き高い精度での運用を実施するとともに、技術部と連携し、関連業務の課題検討を行い、改善を継続して進めた。

①Km鍵発行業務

Km鍵の発行業務について、関係先の協力のもと運用部と連携し、正確な鍵発行を実施し、主要業務としての信頼性を担保するとともに、4K・8K放送普及の一翼を担った。

②Km鍵及びACASチップの在庫管理集計業務

販売会社から報告される発行済みKm鍵の使用状況とACASチップの販売状況について、在庫管理規程に沿った運用を行い、ACAS方式のセキュリティ維持に適うようデータの蓄積、集計に努めた。

増大するデータ量に対応するべく、管理手法を随時点検し、システムの改善を継続して行った。

③ACASチップ発行ID番号管理業務

ACASチップ発行ID番号管理について、Km鍵発行業務と密接に関わるため、相互のシステムを連携とりながら、精度の高い業務遂行を行った。

Km鍵発行数量及び発行IDの集計データを有効に運用管理し、適切な情報共有を引き続き実施した。

【2-3：運用部】

運用部では、ACASチップの更なる普及を促進するとともに、関係者間の連携を維持し、必要に応じて拡大した。

また、スキームを広く視聴者にご理解いただくために、関連団体や企業、放送事業者と連携し、具体的な説明環境を整える等の活動を進めた。

①ACASチップの更なる普及

ACASチップを安定供給するため、チップベンダー及び販売会社と連携し、円滑な流通ルートの維持と、緊急時の備えのための調整を継続して行った。

また、新たなメーカーがACASチップベンダーとして参入検討できる様、各種参入条件の策定を継続して検討した。

②消費者、関係者への丁寧な説明

関係する団体や受信機メーカー、放送事業者等と連携することにより、消費者への適切かつ丁寧な説明を行うとともに、コールセンター等の必要な環境の効率的な整備・充実を図った。

また、表記の見直しや新機種仕様等、必要な情報の収集と丁寧な説明により、受信機器の更なる普及を視野に、市場拡大のための施策・運用を継続して整備した。

③運用委員会等の運営

運用委員会等の会議運営を通じ、会員各社と協力しながらACAS方式の安定運用に必要な課題に対応した。

【2-4：総務・経理部】

総務・経理部では、当協議会運営に関わる体制の整備・充実の取り組みを更に進めた。

①法人ガバナンスの強化

公益的な立場からACAS方式の管理維持を行う一般社団法人として、透明性を確保した事業運営推進のため、引き続き各種内部規則・規程類について、適宜的確に見直しを図るとともに法令・規則等の遵守に努めた。

②会議の運営

社員総会・理事会・運営委員会等の会議の運営にあたっては、会員・委員等とより一層緊密な連携を図り、インターネット会議システムも活用しながら、効果的かつ効率的な会議運営を行った。

③各種契約締結・管理

鍵管理における関係先との契約をはじめ、各種契約の締結・管理にあたっては、引き続き顧問弁護士、各部との連携強化に努めた。

④業務運営の効率化

テレワークの活用、ペーパーレス化の推進等、ワークフローの見直しによる効率的な業務運営に努めた。

⑤適正な予算管理

会計監査人及び顧問税理士法人と連携し、適切な区分経理処理を行うとともに、各部と協議しながら運営経費を見直し、経費の圧縮と中期的な見地から経費の平準化に努めた。

⑥セキュリティ管理の強化

情報セキュリティ管理規程に則り、各部と連携して、管理体制を適宜見直しながら、当協会内の重要物品・重要情報の管理、漏洩防止、防犯等、セキュリティの管理強化に努めた。

3. 法人の運営

2022年度に開催された主な会議は以下の通り

| 区 分 | 回 数 | 開催日 |
|-------|----------------|-------------|
| 社員総会 | 第20回（臨時・決議の省略） | 2022年 4月25日 |
| | 第21回（定時） | 2022年 6月29日 |
| 理事会 | 第73回（決議の省略） | 2022年 4月25日 |
| | 第74回（WEB） | 2022年 5月25日 |
| | 第75回 | 2022年 6月29日 |
| | 第76回（WEB） | 2023年 3月 8日 |
| 運営委員会 | 第83回（WEB） | 2022年 5月24日 |
| | 第84回（WEB） | 2022年 6月28日 |
| | 第85回（電子メール） | 2022年 7月 1日 |
| | 第86回（電子メール） | 2022年11月 1日 |
| | 第87回（WEB） | 2022年12月20日 |
| | 第88回（WEB） | 2023年 3月 7日 |

※上記の他、運用委員会、技術委員会を適宜、開催した。